

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



JIFHが支援を続けるケニアのシーブケア・コミュニティ・センター

本当の豊かさをもつ人

日本国際飢餓対策機構 総主事 近藤高史

ヘリ・ザ・ムワカ・ムピャ Heri Za Mwaka Mpya
(スワヒリ語で明けましておめでとう)

新年の挨拶をケニアの首都ナイロビから申し上げます。私は昨日、スラム街から役所などがある立派な住宅街へと向っていました。普段なら20分で到着する距離でしたが渋滞のために1時間以上もかかりました。車に揺られながらその距離がとても遠くに感じました。それは渋滞のせいではなく、同じ街なのにスラムとそうでない地区に住む人々の暮らしが余りに掛け離れていて、その豊かさのギャップに心がついていかなかったのです。

誰もが豊かになることを願います。それは決して悪いことではありません。しかし昨日私が目にしたのは、かたやショッピングモールで楽しく笑顔で遊ぶ立派な身なりの親子と、かたやゴミの山で何かを拾い歩くボロボロに汚れた同じ年頃であろう親子の姿でした。そしてその距離は車でわずか10分も離れていなかったのです。もしあなたがそのどちらかに身を置くとしたら、あなたはどうかされますか。

スラムにある学校「シーブケア・コミュニティ・センター」

のルーク校長はその決断を17年前に迫られました。将来のために借家建て、その収入で家族と安定した暮らしをするつもりでしたが、水と食べ物を乞いにスラムから毎日訪ねてくる女の子の姿を見るにつけ、彼は自分の家を諦め、スラムに入り学校を始めたのです。

本当の豊かさとは何でしょう。それは「自分の豊かさを誰かのために犠牲にする心を持っていること」ではないでしょうか。世界で飢餓に直面する8億1500万人(9人に一人)が今この時もいることを、忘れないで下さい。彼らの側に立つために私たちにできることは何でしょう。

今回の訪問で嬉しかったことは、ルーク先生の教え子たちが、今や先生やスタッフとなり、スラムに住む人々に働き働いている姿を見ることができたことです。そうです、彼らがまた次の世代を教え導くリーダーになるなら、ここに希望があります。

新しい一年が皆さんにとって豊かな年となりますように。そしてその豊かさを多くの人と分かち合うことができますように、心から祈ります。

「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」

-聖書-

自らの問題解決のため4カ国リーダーが連携を協議

～コンゴのジェローム駐在員が議長を務める～

ガンビア共和国の首都バンジュールで11月7日から4日間、国際飢餓対策機構フェデレーション (FHIF) の第1回アフリカ会議が開かれました。JIFHから参加した浅野スタッフの報告です。



会議の議長を務めたジェローム (コンゴ民主共和国) 駐在員④

体の飢餓と心の飢餓、世界に存在する2つの飢餓の撲滅のためにFHIFでは、飢餓と貧困に苦しんでいる地域の人々が、自分たちにもともと備えられている潜在能力に目を向け、地域の資源を活用して、自分たちが描く理想の村の姿に向かって協力していけるよう「Vision of Community (VOC)」という手法を進めています。そのためにFHIF加盟団体のスタッフは、このような地域の人々と良い関係を築いた上でVOCセミナーを行って、地域のリーダーとなる人々と共にその歩みに寄り添って活動しています。

コンゴ民主共和国のプエトは、このVOCのモデルとなるコミュニティです。ルブア村から3村にVOCが広がっていったように世界中でモデル・コミュニティが始まり拡大していくことを願って、FHIFでは昨年5月の国際会議でそれぞれの国で核となる団体を強め連携を深めるための地域会議を行うことを決めました。その最初の地域

会議として、第1回アフリカ会議が11月に開催されたのです。ガンビアがホスト国となり、FHガンビアのスタッフが献身的に会議の準備と運営を担ってくれました。また、JIFHの海外駐在員でありハンズ・オブ・ラブ・コンゴ (HOLC) の代表でもあるジェローム・カセバが、アフリカ地域コーディネーターとして、議長を務めました。

自らの固定概念と向き合う

会議のテーマは、「固定概念とリーダーシップ」。自分たちは貧しいから、と受ける側に立ち続けているは根本的な解決は望めない、それこそがアフリカの問題だと、FHIFのアフリカ地域のリーダーたちが選んだテーマです。4日間の会議には、ガーナ、シエラレオネ、コンゴ民主共和国、そして、地元ガンビアから約30名が参加しました。それぞれの活動紹介、アフリカ地域の連携のための話し合いに加え、JIFHの海外事業アドバイザーでもあるFHIF代表のラン

ディ・ホーク氏がこのテーマに沿って、セミナーとワークショップを行いました。グループで考え話し合い、互いから学んだ参加者は「村に帰ったら、学んだことをすぐに実践し

人が変わってこそ地域変革

たい。」「村の他のリーダーたちに学んだことを伝えたい。」と目を輝かせていました。この画期的な会議の様子は、ガンビアのテレビニュースでも取り上げられました。

会議終了後も参加者は、ジェローム・カセバやランディ・ホーク氏と連絡を取りながら、新たなVOCモデル・コミュニティに向けて着々と歩みを進めています。何らかのプロジェクトが始まるのは、まだ少し先です。人が変わってこそ本当の持続可能な地域変革が始まります。今回の会議でたくさんの素晴らしいアフリカのリーダーに出会えたことは、私にとって大きな励みでした。

「わたしから始める」と自らが率先して生き方を転換することで、人々の間に変革を引き起こし、新たなリーダーを育成しているリーダーたちを支え、忍耐を持って共に歩んでくださる方々を求めています。ぜひハンガーゼロサポーターになって「わたしから始める、世界が変わる」の歩みに加わってください。

※最終頁に申込欄。またJIFHのホームページからお申し込みができます。「ハンガーゼロ」で検索！



左からハンズ・オブ・ラブ・コンゴのムヒムジ氏、FHガンビアの中心人物の一人フランシス・ゴメス氏、ガーナのロバート・マハマ氏、浅野、ジェローム



ソンさんと通訳のミンスタッフ



ソン・ソルナム親善大使 フルート演奏を通じて小学生と心の交流

当機構の親善大使でフルート奏者のソン・ソルナムさんは、世界各地のコンサートホールでの演奏のかたわら、日本をはじめアジア、アフリカ、ヨーロッパの災害被災地や難民キャンプを訪問して演奏を行い、困難の中にある人々を慰め力づけてこられました。昨年忙しい中海外10ヵ所、国内30ヵ所を訪れています。秋には奈良県生駒市在住の慈善団体代表・増田果枝さんが、是非子どもたちにソンさんの演奏と世界の現状を知らせたいと、小学校での講演を企画。生駒市の『市民みんなで創る音楽祭』の受託事業のひとつとして実施していただきました。

みなさんには素晴らしい可能性がある

2017年11月29日、生駒市立生駒北小学校で全校生170人と先生方々が集まって、ソン・ソルナム親善大使の心に響くフルートの演奏に耳を傾けました。オリジナル曲や、韓流ドラマの主題曲などを演奏した後、ソンさんは演奏に使ったフルートを紹介しながら「値段の高い楽器もあれば安い楽器もあるけれど、楽器を演奏する人の心が何より大切」と話し、「みなさんの中にも勉強が出来る人もいれば、スポーツが出来る人もいますが、みなさんには素晴らしい可能性がある。どんなことでも心を込めてするなら今出来ないこともきっと出来るようになる」と子どもたちを励ましました。

演奏が終わり、その場で見守っておられた校長先生は「最初のフ

ルートの音色を聞いた瞬間、子どもたちの表情が変わるのを見て驚きました」と話し、とても喜んでくださいました。

演奏後には当機構のスタッフが「この世界にはご飯を食べられない日が続いて体が弱くなって苦しんでいるお友だちがいます。食べる物があっても、ずっと同じ物しか食べられなくて栄養が足りなくなり、足や手が動かなくなったり病気になったりします。下痢をただで死んでしまうこともあります。一方日本では、賞味期限が切れたから、きらいだからとまだ食べられる食べ物を捨ててしまったりしています」と話し、アンパンマンの行動から世界の苦しんでいる人たちのためにできることを一緒に考える時間を持ちました。

助け合えることの大切さ

スタッフは「アンパンマンはお腹を空かせているお友だちに出会うと『僕の顔をあげたいけど、顔をあげると力がなくなるから、ごめんね。あげられないよ。』とは絶対に言わずに、自分が痛い思いをしても自分が損をしても、困っている人を助けます。

私たちも自分が持っているものをひとりじめするのではなく、困っている人に分けることが出来ると、助けてもらった人たちは頑張ることができます。私たち一人一人が優しい気持ちを持つことで、きっと世界は変わります」と話しました。

子どもたちの心に、フルートの音色と共にいくつもの大切なことが刻まれたことでしょう。



わたしから始める、世界が変わる

2017年も支援者の皆様がさまざまな形で「わたしから始める、世界が変わる」に取り組んでくださり、共に飢餓と貧困、災害に苦しむ人々を応援することができましたことを心から感謝いたします。新しい一年もぜひ継続して支援の輪を広げていただき、困難の中にある人々を励ますことができますように願っています。今回の特集では、昨年「わたしから始めた」方々の声も加えて紹介させていただきます。



▲チャリティフットサル

参加や計画して“始める”

●世界食料デーに参加する

毎年秋に行われる日本各地の「世界食料デー大会」に参加して現地からの報告を聞く。ボランティアとして運営に加わる。

【世界食料デー・京都長岡大会】

長岡福音自由教会の学生青年会を中心に、近隣教会の協力を得て初めて共に取り組むことができました。JIFHの報告と“ナイトdeライト”の演奏を通して【わたしから始める】きっかけとなったことを感謝します。(準備委員一同)



●海外サマーキャンプや研修に行く

毎年夏に行う「海外サマーキャンプ」に参加して、活動地の人々の生活を体験し国際協力の実際を知る。JIFHのハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングに参加して、海外協力の専門的な学びをする。

★今年のサマーキャンプ(8月)はウガンダ ※P.7に情報

小堀英郎JIFH親善大使も同行して以下の予定で行われます。

日程: 2018年8月中旬～下旬(12日間前後)

内容: 子どもとの交流・家庭訪問、サファリ訪問など

問い合わせ: JIFH東京事務所 03-3518-0781

jifhtokyo@gmail.com

★ファシリテーター・トレーニングキャンプ 講義とワークショップで学ぶ ※P.7に情報

日程: 2018年3月19～23日

会場: 東京基督教大学

問い合わせ: JIFH東京事務所 03-3518-0781

jifhtokyo@gmail.com

●国際協力イベントに参加する

各地で行われるワンワールドフェスティバル(2月大

阪) やグローバルフェスタ(10月東京)、ワールドコーポフェスタ(10月名古屋)などの国際協力フェスティバルにボランティアとして参加する。まずは自分の地域でどのような国際協力団体や催しがあるかを調べてみましょう。各事務所にたずねてください。

●JIFH事務所イベント

【愛知事務所】

愛知事務所では昨年3月に【こんなところにコンゴ人!?今でしょ!国際ボランティア】という国際協力を考えるイベント、また8月には「世界食料デーを呼びかける交流会」をボランティアが企画しました。

(実施したボランティアの声)

この企画をしたことで、実際にボランティアに来てくれるようになった方ができて本当にうれしいです。誰かが一歩踏み出すためのきっかけになってくれればと開催したイベントが、自分自身の2歩目になったイベントでした。



【大阪事務所】(中学生の職業体験)

3日間の体験で普段したことのないことをして、たくさんのことを学ぶことができました。仕事の経験は将来に生かしていきたいです。またばくも飢餓をなくすために少しでも協力したいと思いました。

(柏原中学2年生 乾 晟隆さん)



職業体験を新聞にしてクラスで発表

●企画して実行する

JIFHのスタッフを学校や団体に招いて世界の現状についての話を聞く。JIFHの親善大使を招いて、チャリティーイベントを企画する。

学校の文化祭などで飢餓問題の啓発活動や写真パネル、国際児童画の展示、飢餓問題のワークショップなどを行って関心を深める。

チャリティ企画に
♪ JIFH親善大使
詳しくは各事務所まで



Manami
(歌手)



上原 令子
(ゴスペル歌手)



森 祐理
(福音歌手)



小堀英郎
(ピアニスト)



ソン・ソルナム
(フルート奏者)



ナイトdeライト
(ロックバンド)



柴園 香
(フルート奏者)

生活の中から“始める”

●『本deリンク』で支援する

JIFH愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援に用いさせて頂いています。引越、大掃除の際にもぜひお送りください。利用の際は愛知事務所へお問合せください。



【2017年度実績】154,960円

本1,645冊、CD193枚、DVD51枚

(注)破れや汚れ、書き込みのある書籍、個人出版、文学全集は換金対象外です。CDやDVDのケース割れ、ジャケット、歌詞カード不備、海賊版、個人用、カセットテープやVHSビデオも不可です。

【学校で『本deリンク』や募金活動に取り組む】

JIFHの活動と理念と飢餓についての問題提起を学校で行い、3週間にわたり『本deリンク』の寄付と募金活動を行いました。増えていく寄付品や、募金箱に募金をしてくれる生徒たちの姿を見るのはとても嬉しかったです。また飢餓のない世界の実現にわずかでも貢献できたと思います。
(福岡インターナショナルスクール大西龍之介)

●書き損じはがきで応援する(年賀状も大歓迎)

各事務所では、未投函のはがきを換金して海外スタッフ支援のために用いさせて頂いています。

【2017年度集計】(注) はがきは日本郵便のものに限定
はがき: 154,775円分の切手に換金。

未使用切手: 347,141円分。

国内外の通信費軽減に活用させていただいています。

●使用済み歯ブラシや化粧品容器を集めて国際協力

テラサイクルの「回収プログラム」を通じて当機構に募金ができます。詳しくは東京事務所へ。

●ハンガーゼロ自動販売機を利用・設置する

飲み物を買うと1本につき10円がアフリカの人々に寄付されます。また防災対応のハンガーゼロ自販機を設置していただくと、緊急災害時の備蓄用としてパンの缶詰、水各96個が無償で提供されます。現在、全国

で100台が稼働になりました。

さらに設置してくださる方を求めています。

自販機はとても目立っています。この募金協力や災害対応で備蓄できる仕組みは良いと思います。小さな応援かもしれませんがとても感謝です。

(ラーメン楓/八王子市)



【2017年募金実績】設置100台

2,407,595円

設置のご相談は大阪事務所までどうぞ。設置費用は必要ありません。飲料の補充や回収も行われます。

●募金箱を家庭や職場に置く

小銭と思われるお金も、飢餓・貧困に苦しむ人々にとっては何倍もの価値を持ちます。募金箱は、各事務所にお問合せください。



●ネットを活用する

自分のホームページやブログ、フェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用して飢餓の現状を伝え、支援参加の輪を広げる。



●フェアトレードの商品を購入する



開発途上国の生産者から適正な価格で買い取られた商品などを扱う会社(キングダムビジネス)から買って支援する。(注: 販売収益からJIFHに募金をいただいています)

(購入者の声)

毎年開催されるバザーへの出店を親子で楽しみにしています。ただ買うだけではなく、写真のように身につけて、製品に込められた思いと意義を周りの方々に説明し、購入を勧めています。



募金を“始める”

※募金方法は郵便振替、郵便・銀行からの自動引落しの他、ウェブサイトからクレジットカード、コンビニ決済などご利用できます



「JIFHサポーター」になる。

(一口 500円/月)

「ハンガーゼロサポーター」になる。

(一口1000円/月)

「海外スタッフサポーター」になる。

(一口1000円/月)

「チャイルドサポーター」になる。

(子ども一人4000円/月)

「かざして募金」スマートフォンやPCから支援する。

「Tポイント募金」Tカードの保有ポイントで募金する。



JIFHの各地の事務所にお気軽にお立ち寄りください。各種募金の受付や支援イベントのご相談などお待ちしております。



「レナトフットボールクラブ名古屋」は2012年以来、名古屋を拠点に幼稚園から中学生までを対象に、サッカーを通して心身の成長と日本や世界の仲間たちとの交流を目指して活動しているサッカースクールです。活動の一環として2017年に日本国際飢餓対策機構（以下JIFH）を通じ、南米ボリビアの子どもたちと交流を持ちました。
同クラブコーチの^{ありさかよしのり}有坂好令氏（33才）からお話を伺いました。



サッカーボール一つで始まる国際交流と支援の輪 ～レナトフットボールクラブ名古屋のみなさん～



有坂コーチ



レナトフットボールクラブ名古屋のメンバー。㊤はボールを受け取ったボリビアの子どもたちと小西駐在員

Q ボリビアの子どもたちとサッカー交流を始めたきっかけは…？

私自身が20才から数年間、サッカーの修行として世界各国を旅し、その国々でサッカーをする人々と交流した経験があることから、今指導している子どもたちにも、サッカーのテクニックを学ぶだけでなくぜひ世界の人々、特に子ども同士でサッカーを通じて交流する事を体験してもらいたいと思っていました。私自身はブラジル、メキシコ、タイ、スペインなどでサッカーをしましたが、すごいなと思うのはサッカーボール一つあれば、たとえ言葉は通じなくても一緒に体を動かしてゲームを楽

しめて、すぐに友だちができることです。その素晴らしさをぜひ多くの子たちに体験してほしい、まずはサッカーボールを贈ったり手紙のやりとりからでもいいから、世界の子どもたちと交流が持てたらと思い、JIFH愛知事務所に相談したのが始まりです。

夢は相互でサッカー交流

Q ボリビアの子どもたちの様子を 知った生徒たちの反応は…？

今回はJIFHが支援活動をしているボリビアで村の子どもたちにサッカーボールを贈ったことで、自然と生徒たちもサッカーだけの交流でなく、生まれた国々によって子どもたちが置かれている社会環境がいかに違うのか、また貧し



いと言われる環境の中で育つ子ども自分たちと同じか、もしかしたらもっと生き生きと暮らしていることを知ることができて、すごく良かったと思います。生徒やその家族の方たちも巻き込んでのチャリティパブリックビューイング(写真㊤)も何回かしました。願わくばいつか、物や手紙のやりとりだけでなく、子どもたちが実際に出かけていって一緒にサッカーをしたり、ホームステイで一緒に泊まり合ったりすることができるような交流を持つことが私の夢ですね。ボリビアをはじめとして、これからもっと多くの国々の子どもたちと、サッカーで繋がっていきたいと思います。



ボリビアの子どもたちに手紙を書くクラブのメンバーと手紙を受け取った子どもたち

レナトフットボールクラブ名古屋／URL <http://www.renato-fc.com>



昨年暮に開催したイベント案内

参加して、わたしから始めよう！

「【3月】ファシトレ/【8月】ウガンダ」キャンプ

当機構は今年も支援者の皆様をはじめ一般の方々を対象に、世界の飢餓や貧困問題、国際協力について学べる機会として、3月に「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプ」(東京基督教大学内)と8月に「サマーキャンプ」(アフリカ・ウガンダ)を実施いたします。

ファシリテータートレーニングキャンプは、将来、途上国の人々と共に生き、働きたいと願っておられる方、また世界の諸問題について知りたい方に「飢餓とは何か」、「その原因って」、「自分には何ができるの

か」を考える時間を持っていただくためのキャンプです。共同生活をしながら、専門的な講義とともに参加者同士でグループワークもして楽しく学べます。

今年アフリカで行うウガンダキャンプでは、当機構の支援地で貧困の中から自立に取り組んでいるお話を聞いたり、子どもたちの家庭を訪問したり、楽しい交流プログラムを持ちます。海外キャンプは、国際協力の実際を知る機会となると同時に、将来この分野で働きたい人にとっても、よい学びとなります。

ぜひ参加を検討してください。

参加についての詳しいお問合せとお申し込みは…JIFH東京事務所まで Tel:03-3518-0781

※会場の東京基督教大学(千葉)までの交通費は各自でご負担いただきます

※申込はキャンプ日程と参加費が確定した時点から先着順で受付いたします



ファシリテータートレーニングでは素晴らしい環境で共同生活をしながら楽しく学びます



ウガンダでは支援している子どもたちとの交流も



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

パンの缶詰の「救缶鳥プロジェクト」 「環境大臣 最優秀賞」受賞!

持続可能な社会の実現を目指し、一人ひとりが現在のライフスタイルを見つめ直すきっかけを作るため、「環境と社会によい暮らし」やこれを支える地道な取組(ボランティア活動、サービス・技術など)を募集する環境省の事業、「第5回グッドライフ・アワード」において、当機構の協力企業、パン・アキモトの救缶鳥プロジェクトが「環境大臣賞 最優秀賞」を受賞しました。



当機構はこのパンの缶詰を活用した「救缶鳥プロジェクト」を通じて、食料不足の開発途上国や災害時の緊急食料支援を行っています。当機構ハンガーゼロ特別大使でもある秋元義彦氏の企業による社会貢献活動が、最高位の賞に輝いたことは私たちにとっても大きな喜びです。

「2018年 迎春恵みセット」

- ①ハンガー・ゼロ活動支援品/レギュラーコーヒー モカ・ブレンド1袋¥930円 ②おいしい非常備蓄食/パンの缶詰3缶セット ¥1,290 ③カードスタンド(デザインおまかせ) ¥600

梱包発送料700円
以上合計3,520円を
税込2,900円でお届け

(但し北海道、沖縄、離島は送料700円加算) 夜間の配達希望はお知らせください。ウェブからもお求め可能。
・お支払いは後払い 郵便局払込で株式会社キングダムビジネス口座へ。



【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

西日本最大の国際協力のお祭り ワン・ワールド・フェスティバル2018

2月3・4日 ぜひご来会ください

会場: カンテレ扇町スクエア(1F)、北区民センター、扇町公園



フルート奏者
し おん かおり

紫園 香さんが当機構親善大使に就任

「ケニア・ナイロビにあるコイノニア教育センターでスラムの子どもたちの教育支援に長きに渡って携わって参りました。新校舎のためのチャリティコンサートを全国展開し、開催は20回になりました。JIFHもコイノニアの給食支援をして下さり、それがご縁で親善大使就任に繋がりました。いのちのある限り、世界の飢餓に苦しむ子どもたちの命と魂の救いのために働かせていただきたいと思います、心から願っています」(紫園香)

紫園香さん紹介...フルート奏者・音楽伝道師。天から降りそそぐフルートの音色は、聞く人の心を開き、いのちの風を吹きこむ。東京芸大・同大学院首席卒業、フルートの巨匠モイーズの薫陶を受けマスターコース最優秀修了。第7回万里の長城杯国際コンクール等多数受賞、国際文化交流基金、外務省他で世界20カ国から招聘、御前演奏者でもある一流の技術を持ちて世界中にフルートを通して福音を届けている。現在、日本クラシック・コンクール審査員。東京バプテスト神学校教会音楽科、ユーオーディア・アカデミー、ムラマツ・フルート・レッスンセンター、各講師。ケニアコイノニア教育センター特別講師。キリスト品川教会音楽伝道師。曲集、CD11枚発売中。

紫園さんを招いて「チャリティコンサート」を希望される方は東京事務所までご相談ください

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4426口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ クリスマス募金 エイズ孤児の未来のために
一時募金として()円
- ☐ ハンガーゼロサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: 男・女

〒

フリガナ 住所:

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 330号

FAX・072-920-2155

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

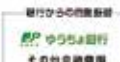


Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OOCビル517号室
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株) 経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに502060ポイント(円)のご協力(4932件)がありました。募金はTポイント募金で検索